

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 25 日現在

機関番号：34506

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24720331

研究課題名(和文) 中世後期アラブ世界の書物・図書館・読書

研究課題名(英文) Books, libraries and reading in the late Medieval Arab World

研究代表者

中町 信孝 (Nakamachi, Nobutaka)

甲南大学・文学部・教授

研究者番号：70465384

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：前近代アラブ世界における、書物を介した知的伝達、および、知識人たちの読書行為をめぐる社会的実践のあり方を分析した。ワクフ文書を用いることで、モスクやマドラサ(学院)における書物を中心とした社会的実践の諸相が明らかとなり、また、アラビア語手稿本の奥付等に記された書き込みを「文書的」に利用することで、より細かな具体例を集めることができた。こうして明らかになった当時のアラブ世界における社会的実践のあり方を他地域と比較し、当該地域・時代の有する特徴を描き出した。

研究成果の概要(英文)：This study surveyed the literary transmission of the knowledge, reading practice of the intellectuals, and other aspects of social practice in the pre-modern Arab world. Analysis of the awqaf documents clarified the aspects of the social practice using the books in Mosques and Madrasas. Using the notes written in the colophons of the Arabic manuscripts as documentary sources offered us rich examples of intellectuals in those days. Comparison of the social practice in the Arab world with that of the other regions illustrated the characteristic feature of this region.

研究分野：東洋史

キーワード：イスラーム史 文献学 写本研究 ワクフ文書 自筆本

1. 研究開始当初の背景

前近代のアラブ世界における知識の歴史において、口承伝達が大きな役割を果たしてきたことは、従来多くの研究で指摘されてきた。しかし、ハディース(預言者の伝承)や歴史的知識の伝達の仕方を詳しく見るならば、そこにはウォルター・J. オングの言う「声の文化」よりも、「文字の文化」の特徴である、テキストの固定性や抽象的思考といった諸特徴が確認される。ここに、従来看過されてきたイスラーム的知の「書承性」について検討する意義が見いだせる。

また、研究代表者である中町は、これまでマムルーク朝歴史研究の一端として、歴史家バドルッディーン・アイニーの著作から見た、知識人の知的実践の実例を研究してきた。その過程で、彼の主著である『真珠の首飾り』を初めとする諸作品の文献学的重要性、および、彼とその親族による社会的実践について明らかにしてきた。こうしたミクロな分析によって得られた知見を、より広く、前近代アラブ世界、ムスリム社会における知的営為全般という文脈で位置づける必要性が生じていた。

2. 研究の目的

以上のような研究状況から、この研究では特に、イスラーム的知の書物による伝達に注目し、どのような書物が、どのような場所で、どのようにして用いられていたのかを考察する。中世後期において蔵書・研究機関の中心となったのは、寄進財産であるワクフの制度によって運営される、モスクやマドラサ(学院)であるため、今に残るワクフ文書群や、手稿本(写本)の奥付等に書き込まれた、ワクフ等さまざまな文書的記述を分析することで、当時の書物の具体的なあり方を解明する。

そのようにして集まったデータと、従来の研究成果とを合わせ、当時の知識人たちによる読書・執筆行為の具体的な姿を再構成する。特に、これまでの研究代表者の主たる研究対象である歴史家アイニーと、彼の生きた時代に活躍したさまざまな知識人たちの読書・執筆プロセスを解明し、比較する。こうした比較研究は、西洋史・東アジア史における書物・読書の歴史研究との比較研究への道を開くだろう。

3. 研究の方法

(1) 文書に基づく研究：この時代の書物は大半がモスクやマドラサなどの宗教的寄進施設に保存されており、さまざまな知的営為もそれら施設を舞台に繰り広げられていた。それら施設の運営を経済面で支えていたのは、寄進財産であるワクフの制度であった。それゆえ、ワクフ設定文書にはこの時代の書物や読書に関する情報が数多く残っており、ワクフ設定文書を分析することによって当時の知識人たちによる知の社会的実践のあ

り方を知ることができる。

ワクフ設定文書の現物は、カイロの国立文書館、ワクフ省等に保存されているが、これらの施設は利用申請に時間がかかるため、海外からの利用は難しい。とくに、昨今のようにアラブ諸国の政情が不安定な時期には、現地への渡航とりやめを余儀なくされることも多く、恒常的な利用を見込むことはできない。しかし、シカゴ大学など海外の研究施設では文書のマイクロフィルムコピーを有するところもあり、また近年では文書の校訂テキストも少数ながら刊行されるようになってきている。

なお、ワクフ設定文書を用いた研究には、従前からアラビア語による豊富な蓄積もあり、それらは文書校訂も多く含んでおり重要である。それらは単著の形で公開されているものは少なく、いずれも大学紀要などの形で発表されているため、日本からの入手は困難であることが多い。しかし、ワクフを用いた研究にとっては必読の参考文献である。

(2) 手稿本に基づく研究：年代記や地誌などナラティブな史料を治めた手稿本だが、それらの奥付等、「パラテキスト」の部分は独立した史料としての重要性を有する。執筆者・書写者の名や擱筆年月日、執筆・書写を行った場所についての情報が記されるばかりか、その書物を対象としたワクフの設定文や、さらには「サマーウ」と呼ばれる聴講記録などが書き込まれることもある。

それら、手稿本に記された情報を「文書」として扱うことにより、蔵書施設における蔵書数、書目や、書物の作成に関わった人物など、当時の書物の扱われ方についての詳細なデータを抽出できるのである。

手稿本のパラテキストについては、個々の手稿本に直接当たる以外にも、写本カタログなどに網羅的に記されていることもある。また、校訂本には時に、底本として用いた手稿本のパラテキスト部分までも校訂されていることもある。さらに聴講記録に関しては近年、サマーウのカタログなども刊行されている。

(3) 総合的研究：アイニーを中心とした分析を、その時代のさまざまな事例と比較することによって、前近代アラブ世界の全体像にまで敷衍する。また、書物・読書の歴史に関して豊富な実績のある、西洋史・東アジア史との比較を行う。

4. 研究成果

本研究期間においては、初年度における半年間のシカゴ大学での研究をはじめ、トルコ、ベルギー、イギリス、エジプトにおける短期間の滞在による資料調査および研究発表を行った。しかし、最も重要なエジプトにおける資料調査については、現地情勢の不安定化にともない何度かの延期を余儀なくされ、そのために研究計画を大幅に見直し助成期間を1年延長した。最終年度においては文書館

への利用申請提出を行うことができ、今後の現地調査への道を開いたものの、現地で文書調査は今後の大きな課題として残された形となる。以下、上記(1)～(3)の研究方法に沿って、研究成果を整理する。

(1)の文書研究については、エジプトでの調査は十分に行えなかったものの、シカゴ大学図書館が所有する豊富なマイクロフィルムコピーを閲覧し、一部をコピーすることはできた。また、同図書館には過去のアラビア語によるワクフ研究の成果が網羅的に収集されており、それらを参照する機会が持てた。こうした資料収集の成果は、今後行うエジプトにおける文書調査とあわせて、分析を継続したい。

(2)の手稿本研究については、雑誌論文を刊行した。この論文では、アイニーの弟による写本の奥付に記されたワクフ設定文の分析から、従来の研究では取り上げられることのなかった非著名知識人による知の社会的実践を考察した。また、既発表論文に基づくものであるが、学会発表ともまた、手稿本の奥付等を利用した研究である。

このほか当研究期間中には、申請当初にはその重要性を認識していなかった、サマーウ(聴講記録)を用いた一連の研究に触れることができた。これらは手稿本の文書利用という点で、ワクフなど通じるものであり、また当時の書物や読書の具体的な事例を知ることのできる史料として、きわめて価値が高い。ダマスカスに収められた手稿本からサマーウの記録を集めたS.レーダーによるカタログなど、定量調査の材料としても利用可能な先行研究もあり、これについては継続的な分析を行う所存である。

(3)の総合的研究については、本研究期間を通してさまざまな機会に公表することができた。図書は、アイニーによる歴史書執筆の実例を中心に、さまざまな先行研究を紹介しつつ、マムルーク朝時代の史書執筆行為を概観するレビュー論文としての役割を持つ。こうした、前近代アラブ世界における書物に関する実践を分かりやすい形で提示した論文は、他ジャンルとの比較にも道を開いた。

学会発表は、古代から現代にいたる西アジア史を「宗教」というキーワードで通時比較を行ったものだが、ここにはこれまで行ってきた文献学的研究の成果が盛り込まれている。また学会発表は、中世ヨーロッパ史との比較を意識して、マムルーク朝知識人の全体像を提示したものであるが、この試みをさらに推し進め、学会発表では日本、中国、西洋との比較史の場において、「イスラーム的読書」なる概念を手がかりに、前近代アラブ世界の書物・読書の特異性や他との共通性を論じた。

なお、本研究機関を通しては英語を用いた発表や交流を数多く行うことができた。その結果、今まで日本の学会ではほとんど紹介さ

れることのなかった、トルコにおける歴史家アイニー研究サークルとの交流が生まれ、今後の共同研究への道を開いた。またベルギーにおけるF.ポダン教授との交流は、教授の2度にわたる来日につながり、そのうち1度目は京都大学における講演会、2度目は東京大学における研究セミナーという形で結実した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

中町信孝「マムルーク朝初期の軍隊とモンゴル系亡命軍事集団(ワーフィディーヤ)」『史潮』, 査読無, 77(2015), 67-85.

中町信孝「バドルッディーン・アイニーの職業的キャリア: マムルーク朝ウラマーの一事例(2)」『甲南大学紀要』, 査読無, 文学編 164(2014), 237-248. (10.14990/00001133)

中町信孝・橋爪烈・原山隆広・吉村武典・佐藤健太郎訳「イブン・ハルドゥーン自伝6」『イスラーム地域研究ジャーナル』, 査読無, 6(2014), 31-49.

Nobutaka Nakamachi, "Life in the Margins: Shihab al-Din Ahmad al-Ayni, a Non-Elite Intellectual in the Mamluk Period (余白の人生: 非著名知識人アフマド・アイニー)," *Orient*, 査読有, 48(2013), 95-111. (10.5356/orient.48.95)

〔学会発表〕(計7件)

中町信孝「中世アラブ史における読むことと書くこと 「イスラーム的読書」はあるか?」ミニシンポジウム「読むことと書くことの歴史学」, 2015年02月27日、千葉大学(千葉県千葉市)

中町信孝「マムルーク朝初期の軍隊とモンゴル系亡命軍事集団」歴史学会第39回大会シンポジウム, 2014年12月7日、明治大学(東京都千代田区)

中町信孝「マムルーク朝時代のウラマー: 知識人の比較史にむけて」関西中世史研究会7月例会, 2014年07月26日、京都大学(京都府京都市)

Nobutaka Nakamachi, "From Full Moon to A Pearl Necklace and beyond: al-Ayni's working method for his chronicles (満月から真珠の首飾り、そしてその向こう側: アイニーの年代記執筆方法)," *Autograph/holograph and authorial manuscripts in Arabic script*, 2013年10月11日、リエージュ(ベルギー)

中町信孝「中世イスラーム時代の「政治」と「宗教」西アジア・北東アフリカ史における「政治」と「宗教」再考: エジ

プトを舞台に、2013年07月、筑波大学
(茨城県つくば市)

Nobutaka Nakamachi, "Four Chronicles
Attributed to Badr al-Din al-Ayni (ア
イニーに帰せられた4年代記),"
International Bedruddin el-Ayni
Symposium, 2013年05月10日,ガジア
ンテプ(トルコ)

[図書](計1件)

小杉泰・林佳世子編、名古屋大学出版会、
『イスラーム 書物の歴史』2014、
472(191-206)(中町信孝「アラブの歴史
書と歴史家：マムルーク朝時代を中心
に」)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中町 信孝 (NAKAMACHI, Nobutaka)

甲南大学・文学部・教授

研究者番号：70465384